

## 社会科研究部会

### I 研究テーマ

#### 「自ら学びとる学習過程の研究」

—思考力，判断力，表現力等をはぐくむ授業の創造—

### II 研究テーマ設定の理由

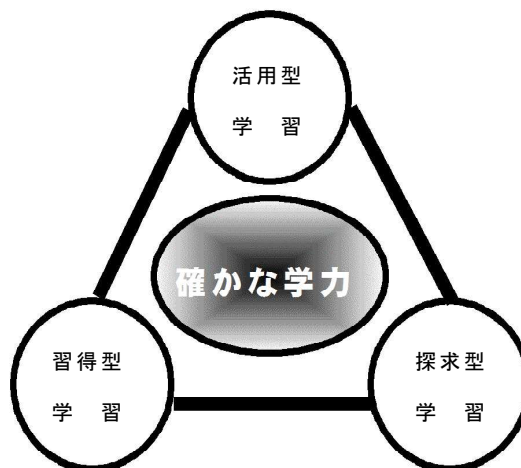
甲教協社会科部会では、「自ら学びとる学習過程の研究」という研究テーマのもと，その時の教育界の潮流を取り上げながら，発展的な研究を行ってきている。ここ数年は新学習指導要領の改訂を踏まえ，

- 習得型学習（知識・技能を習得させるための学習）
- 活用型学習（思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむための学習）
- 探求型学習（主体的な学習，個性を生かす学習）

をバランスよく行うことが生徒の「確かな学力」を育成することにつながると解釈し，授業実践を中心に研究を進めてきた。

今年度の社会科部会では，これらのうち，

- 1，「平和で民主的な国家社会の形成者を育成する」ために展開される社会科の授業において，「思考力，判断力，表現力等」の育成は必要不可欠な部分であると考えから。
- 2，「平和で民主的な国家社会の形成者を育成する」ために展開される社会科の授業において，「思考力，判断力，表現力等」の育成は必要不可欠な部分であると考えから。
- 3，言語活動の充実が重要視されているが，社会科教育における言語活動は，表現力の育成に焦点化されると考えるから。
- 4，「習得型学習」「探求型学習」に比べ，指導案や活用資料等の多様性があり，情報交換もしやすく，より効果的な研究が推進できると考えるから。



というような理由から，活用型学習に焦点を当てて研究を行ってきた。

また，昨年度同様にブロック別研究を行い，少人数のブロック制で，機能的な討議や実践的な研究を行っていく。そして，各校で試行錯誤を重ねた授業実践を提案し，そこから新たな成果や課題点を見い出していく。

### Ⅲ 研究の経過と内容

#### 1. 研究内容

- (1) 東西ブロックに分かれ、授業案又は研究したものを提案・討議・発表する。(6月、11月のブロック研究の担当校を決める。※センター校は除く。
- (2) センター校方式を行い、研究テーマに沿った授業実践や研究を行う。
- (3) 夏休みの研究会は、普段個人では研究できないような特別な機会や臨地研修を行い、生徒に直接関わるような場所での社会的見識を深める。
- (4) 小中合同研究を行う。

#### 2. 研究経過

- 4/10 (火) 第1回 南西中 部会役員の決定、部会の運営について
- 5/15 (火) 第2回 南中 全体集会、研究テーマ等の決定、ブロック別会議  
(6月、11月の担当校決定)
- 6/19 (火) 第3回 南西中 ブロック研究1(各ブロックにて授業案等の検討)  
東ブロック；南西・北東中、西ブロック；北・北西・上条中が提案
- 7/31 (水) 第4回 人材開発センター  
「新学習指導要領における公民的分野の取り扱い」についての学習会、  
センター校(南中)指導案検討、夏季全体集会(アイメッセ)
- 8/16 (金) 第5回 新甲府市役所本庁舎での臨地研修、センター校指導案検討
- 9/3 (火) 第6回 大里小 小中合同研究会研究授業 大里小で実践
- 10/1 (火) 第7回 南中 小中合同研究会研究授業 南中で実践
- 11/5 (火) 第8回 南西中 第63次県教研還流報告、ブロック別研究2  
東ブロック；東・城南・附属中、西ブロック；西・富竹・笛南中が提案
- 1/21 (火) 第9回 北西中 ブロック別研究報告、活動の総括、来年度の基本方針

#### 3. 研究授業

- (1) 単元名 「近代の幕開け」(歴史的分野)
- (2) 本時の授業

①題材名：「ペリー来航」とは？～世界史の中のペリー来航～

②題材観

ペリー来航の目的は、当時の大統領の国書から、太平洋での捕鯨や中国貿易船の航海路の寄港地の確保であることがわかる。この出来事は、日本が「鎖国」から「開国」へ大きく外交政策を転換し、近代化への第一歩を踏み出すきっかけとなった。そのため、ペリー来航は、世界史の動きと関連させて捉えるよりも、あくまでも日本史の重大事件として取り扱われる。しかし、ペリー来航の背景には、市民革命や産業革命を経て経済力・軍事力を増した欧米諸国の動きが大きく関係している。日本が鎖国を通して泰平の時代を築いていた時期に世界では大きな社会の変化があり、それは否応なく列強のアジア進出という形で日本を含めアジアへ影響を及ぼしていく。ペリー来航で日本が開国す

ることによって、それまでヨーロッパが築きあげてきた大西洋中心の世界が、太平洋を通じてアメリカやアジア諸国をさらに深く組み込んだ世界へと発展し、さらに西洋の近代化のシステムがアジアに及ぶきっかけとなったといえる。

本題材は、小学校でも学習する内容であり、主にペリー来航が当時の日本社会に与えた影響に視点を置いている。つまり日本が欧米の文化をとり入れつつ近代国家への歩みを始めたきっかけとなった出来事として、日本の近代化である明治維新の諸改革につなげて学習を進めていく。本時では、小学校の学習内容とのつながりを意識し、中学校で新たに学習する世界の動きに注目して考察することで、ペリー来航という日本の歴史的な事象についての理解を深めたい。そのため、小学校の学習内容を復習しつつ日本に視点をおいた見方から、まずはアメリカに視点を置き換え、それを踏まえて世界に視点を広げていくという授業構成になっている。

ペリー来航という出来事について世界史を背景に考察することで、さらにペリーの来航という歴史的な事象への興味・関心を高めていけるようにしていきたい。

### ③本時の目標

ア 既習事項や資料を参考に、ペリー来航について積極的に発言するとともに、世界史を背景に考察することでペリー来航への関心を高めることができる

(関心・意欲・態度)

イ ペリー来航という日本の歴史的な事象を、世界史と関連づけて多面的・多角的に考察し、適切に表現することができる。(思考・判断・表現)

### (3) 研究会より

- ・小学校の既習内容と中学校の前時までの学習内容を上手く用いて、授業が展開されていた。世界史を扱うことで、日本史が見えてくる良い題材であった。
- ・歴史的視点だけでなく、地理的な視点からも学ぶことができていた。
- ・良い意見だけを取り出すべきではなく、さまざまな意見を練り上げてまとめにつなげる方が学習が深まる。

## IV 研究の反省と課題

数年来継続的に行っている小中合同の授業研究会は、発達段階に応じた社会科指導の重要性を小中の部員相互で確認することができ、大変有意義であった。特に、前年度の小学校と今年度の中学校でのペリー来航の研究授業がそれを物語っている。それゆえに、来年度の小中合同研究も今年度までの研究を踏襲しながら、さらにもっと学びあえる研究をしていきたいとの意見が多い。

新学習指導要領の実施から1年を経て、テーマに迫る授業実践の他に、課題提起をする提案もあり、日々の授業実践で生徒に還元できる有意義な情報交換等を行うことができたと思う。来年度は、「応用」・「活用」ということにも意識をおきながら実践活動や研究会を行い、部員の実践力向上に役立つ研究を推進していきたい。